

3月3日のひなまつりは上巳の節句。別名「桃の節句」とも呼ばれます。春がやってくると明るく華やかな花を咲かせ、みずみずしく生命力に満ちた果実を実らせる桃は、古くから魔除け・辟邪の力があると信じられてきました。なぜ桃が魔除けになると考えられたのでしょうか？その由来に調べてみました。

節句人形
素朴なギモン



桃と厄除け

中国で長生の仙果とされた桃

桃は中国原産の植物である。中国では早くから栽培され、多くの神話・民間伝承に桃が登場する。古くは、孔子の編とされる『詩経』（紀元前十世紀から紀元前六世紀までの歌謡を集めた書）に桃を謳った詩篇がある。また、『周礼』『春秋左氏伝』『礼記』などの史書には、中国古代の帝王や諸侯が式典を行う際に、桃の枝や桃の木で作った弓で凶悪を追い払ったことが記されている。

漢代になると、度朔山という山に三千里に広がる桃の巨木が生えており、その枝の北東に鬼門があり万鬼がうろついているので、天帝の命を受けた二神が守っているという神話が古書に記されている。さらに六朝時代になると、桃が長生の仙果であるという伝説が数々の書に登場する。その中には、中国で古代から信仰された女神・西王母が

漢の宮廷を訪れ、漢の武帝に三千年に一度だけ実を結ぶ桃の実を与えたというものがある。ここから桃の木を仙木、桃の実を仙果とする民間信仰がうまれた。春秋時代になると、三月三日に西王母の誕生日を祝う祭り「蟠桃会」が年中行事として定着した。「蟠桃会」は別名「桃花節」とも呼ばれた。

漢の時代からは三月のはじめの巳の日（上巳）に水辺に出て禊をする風習が始まった。六朝時代に入ると、上巳に流水に盃を流す「曲水の宴」が始まり、宴において病を避け寿命を延ばすために髪に柳の一枝を飾り、桃の花をひたした酒を飲んで災厄を祓うなどが行われた。上巳行事は平安時代に日本に伝来し、ひな遊びと結びつき、現在のひなまつりの起源となった。

桃で鬼を追い払う

日本においても、桃にまつわる伝承は数多い。『古事記』には、イザナギノミコトが亡くなった妻に会うために黄泉国に赴き、変わり果てた妻の姿を見て逃げ帰る途中、追ってきた鬼を撃退するために桃の木の下に隠れ、桃の実を三つ投げつけたところ鬼が退散したと記される。

『延喜式』には、宮中で十二月晦日に行われた

追儺で、陰陽寮から配られた桃の杖と弓で疫鬼を払ったと記される。また、昔話でおなじみの「桃太郎」は、桃からうまれた桃太郎が鬼退治に出かける話だ。

これらもまた、桃の実が西王母伝説の長寿の仙果と信じられたこと、桃に鬼を追い払う力があると信じられた中国思想に影響を受けたものだ。